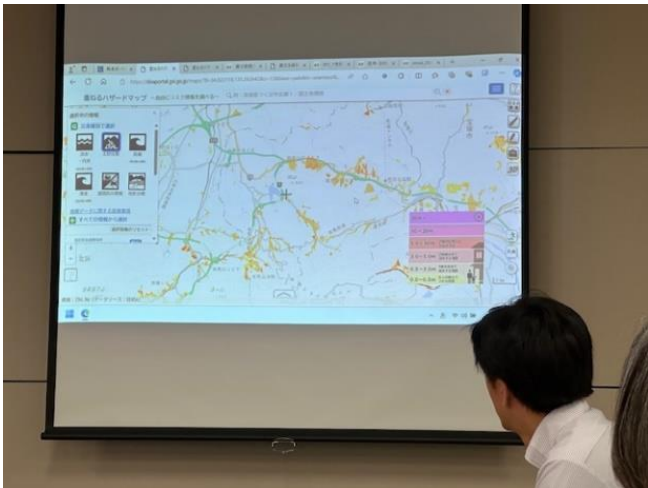


【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会参政党
参 加 議 員	【議員】 1 名 山本貴士
日 程	令和 6 年（2024 年）8 月 9 日（金）
詳 細	
視察日及び視察先	8 月 9 日（金） 兵庫県 神戸市 人と未来防災センター
視 察 内 容	阪神淡路大震災の記憶と復興の取り組み
概 要	防災計画、技術と設備、教育と訓練、データと研究、協力と連携
所 感 等 （意見・課題・ 本市への反映など）	平成 7 年(1995 年)に発生した阪神淡路大震災の記憶、復興の取り組みについて視察を行い、当該施設では当時の状況をそのまま伝える展示がなされており、地震発生の予測の困難さから如何に対策や準備を行うか、その啓発が如何に重要かなどを訴えられていました。 また、大災害を生き残るためには地域の繋がりも大変重要であり、自助は元より、共助の大切さも学びました。とりわけ、本震災の救助では近隣住民が力を合わせた救助活動により、8 割の人々の命が救われていることから、本市においても自治体など地域の繋がりを強化し共助態勢を取ることは極めて重要且つ有効で、大切な市民の命を守ることに至るとの結論を得ました。 更に、宅内死亡のほとんどが圧死であることを鑑みると、家具類などの転倒防止措置を講じることが如何に重要であるかも同時に窺い知ることが出来ました。本市においても家具類の転倒防止措置を講じる啓発を更に推進し、いつ発生するか分からない大規模震災に備え、多くの人が生き残る強い八王子にする取り組みを加速させていくことが要であると認識致しました。
視察の様子	
  	
震災直後の様子を正確に表した展示	湾曲したグレーチング 防災センター玄関

視察日及び視察先	8月9日（金） 兵庫県 西宮市 西宮市役所
視 察 内 容	震災発生時の取り組み
概 要	阪神淡路大震災の教訓、現在の防災計画と取組、市民への教育と意識向上、緊急時の対応と避難計画、協力と連携、過去の震災対応の改善点、防災技術
所 感 等 (意見・課題・ 本市への反映など)	市民と直接関わり震災被害を抑えつつ市民の生命と財産を守る取り組みを行っている当該市に視察を致しました。 意識啓発、知識向上を図るために、震災関連の出前講座などを年100回程度と頻回開催を行うと共に、防災訓練を小学校区単位で行い、常に災害に備える取り組みが行われていました。小学校区での参加者も300人～1,000人規模で開催されており、本市においても同様の訓練を実施するのを感じました。 防災訓練参加者には、簡易な防災食やホイッスル、安価なLEDランプなどの実用且つ意識向上効果のある防災グッズを配布するなど工夫が見られました。 様々な災害の規模と種類を想定し、火災、土砂、断水、津波、圧死などの対策が行われており、要介護者など速やかな避難が出来ない人に対しては避難支援団体が主導し「安否確認タオル」の配布も行われ、無事であれば掲示するなどの災害時でもメッセージを発信できる体制を整えていました。 西宮市では227の自主防災会があり、密な共助体制が敷かれていました。 また、大規模震災(災害)発生時の遺体安置所の速やかな準備など、過去の教訓への取り組みも成されており、自衛隊との連携も行いつつ、災害時に最も重要な避難所の運営にもボランティア団体、社会福祉協議会との連携で指揮を取れる体制を整えていることが覗えました。 更に、災害時に発生しやすい犯罪や、混乱の中で生じる警察機能の低下に対しても備えが必要なことも見えて参りました。 災害に対しての職員の備えとして、官舎を震災後早々に建て、管理職や震災対策経験者、希望職員を中心に夜間も常駐し、大規模災害時においても即時対策が取れるよう市役所機能、指揮系統の保持が行われており、本市においても予算を確保し宿直できる体制の確保も必要ではないかと感じました。
視察の様子	
 災害発生時の被害想定可視化  西宮市議会議場	